

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

詳細事例報告書（認定薬剤師・更新用） 3

氏 名	細川 謙太	認定薬剤師番号	
事例時期	2022 年 2 月 28 日 ～ 2022 年 5 月 31 日（終了）継続		
領 域	H:セルフメディケーションに必要な OTC・健康食品・漢方薬などの知識と活用	事例発生場所	薬局・病院・在宅・その他
表 題	グルコサミンのサプリメントによる眼圧上昇を疑った事例		

記載上の注意：10.5pt の文字を用いて記載すること。このページを含めて 2 枚に収めること。

1. その事例を選んだ理由

調剤薬局では通常患者のカルテを見ることはできないため薬の薬効・副作用・コンプライアンス・相互作用や生活環境など様々なことを患者から聞き取り予測しながら薬物治療を進めていく。今回、緑内障で長期間治療を続けていたが急に眼圧管理が悪化した事例を経験した。眼圧が上昇した場合、薬剤師の視点ではコンプライアンスや目薬の使用手技、カフェイン摂取、抗コリン作用のある薬や相互作用などに注目しがちであるが原因を見つけることができずグルコサミンのサプリメントによる影響を疑った。持っている知識や経験則だけではなく、患者に寄り添うことで多くの情報を得て、様々な視点から原因を予測する必要性を学んだため報告する。

2. 実践した具体的内容

【症例】78 歳・女性

【現病歴】緑内障、シェーングレン症候群、高血圧症、脂質異常症、骨粗鬆症、腰痛症、逆流性食道炎、気管支喘息

【使用薬剤】ルミガン点眼液 0.03%、アゾルガ配合懸濁性点眼液、グラナテック点眼液 0.4%、ムコスタ点眼液 UD2%

【併用薬】エビスタ錠 60 mg、セルタッチテープ 70、タケプロン OD 錠 15 mg、セルベックス細粒 10%、パルミコート 200 μg タービュヘイラー、アムロジピン OD 錠 2.5 mg、アトルバスタチン錠 5 mg

【経緯】2019 年～2021 年 眼圧（mmHg）は左右ともに 14～15 で推移

2022 年 X 月 右 19/左 19 「眼圧高いのが続いているけど、先生は日常生活に支障はないはずだから続けてといわれた。」

X+1 月 右 18/左 19 「ずっと眼圧よかったのにここ数か月高いままになっている。生活は何も変えていないのに上がるから気になってしまう。」

カフェインの摂取はほぼなくコーヒーを飲むのは月 1 回程度。服用薬剤はお薬手帳記載のものが全て変更はなく経口ステロイドやテオフィリン、抗コリン作用の強い薬剤など服用はなし。¹⁾ 目薬の使用手技に問題なく、使用忘れもなし。処方量と受診頻度・残薬からもコンプライアンスに問題はないと思われる。

眼圧上昇以外の体調の変化について「昨年末くらいから腰の痛みがあった。だからグルコサミンの

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

サプリメントをここ 3 か月くらい服用している。腰の方はもうほとんどよくなりました。」

生活環境に変化がなく唯一変化があったのが腰痛、グルコサミンのサプリメントの服用開始であったため緑内障診療ガイドライン・論文などを検索。グルコサミンのサプリメント服用により眼圧の上昇が起こる可能性があるという研究があった。²⁾ ガイドラインで示されているものではなく論文も少数であるため確証はないが、腰痛の症状も改善しているため服用中止を提案したところ本人は快諾された。服用していたサプリメントのグルコサミン含有量などについては不明。

X+4 月 右 16/左 16 「眼圧が少し下がってよかったです。薬が変わったわけじゃないからグルコサミンのせいだったと思う。」

X+5 月 右 16/左 16 「先生はもう少し下げたいって言っているけどもう少し様子を見ます。」

3. プライマリ・ケアに関する考察

サプリメントに関する情報はナチュラルメディシンや国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所ウェブサイトから得ることができるが、患者が摂取している情報を得られたことが重要であったと考えられる。眼圧の上昇に対してコンプライアンス、薬物相互作用、生活環境など様々な点を確認したが原因不明であった。持っている知識や経験だけを頼りにしていれば薬剤変更の提案で終わっていた可能性があった。

今回の事例ではグルコサミンのサプリメントの情報は詳細に得られておらず、必ずしも原因とはいき切れないが、患者の不安に寄り添って一緒に考えることで原因と思われるものを探し出すことができた。

プライマリ・ケアの 5 要素の中でも気軽に時間をかけて相談することができる近接性、薬のことだけではなく健康食品や不安な気持ちなど様々な相談をできた包括性、症状の悪化と単純に決めつけることなく原因を追究し不安を解消するという責任性の 3 つを発揮することができた。

参考文献

1. 緑内障診療ガイドライン 日本緑内障学会緑内障診療ガイドライン改訂委員会
2. Effect of glucosamine on intraocular pressure: a randomized clinical trial.
Esfandiari H, Pakravan M, Zakeri Z, Ziaie S, Pakravan P, Ownagh V. Eye (Lond). 2017 Mar;31(3):389-394. doi: 10.1038/eye.2016.221. Epub 2016 Oct 21.